

## 藺浦外務副大臣冒頭挨拶

- 本日は、お忙しいところ「ジャパン・ハウス有識者諮問会議」にご出席いただきありがとうございます。外務省の副大臣として、再びこの会議に出席し、皆様のご意見を直接伺う機会を得たことを大変嬉しく思います。
- いよいよ来年、ジャパン・ハウスがオープンいたします。本日は、冒頭、ジャパン・ハウスという事業の大枠について、自分からご説明させていただきます。
- 今更申し上げるまでもなく、ジャパン・ハウスでは、「世界を豊かにする日本」を大きなテーマとして、「日本とは何か」という問いかけを関係者全員が持ち続けることにより、日本の様々な魅力を発信し、日本への深い理解と共感の輪を広げて行くことを目的としております。

### (事業関連－巡回展)

- そのようなジャパン・ハウスの特質として、民間の知見を最大限活用するということが挙げられます。日本の魅力と一口にいても、伝統文化やポップカルチャー、デザイン、建築、科学技術など、多種多様です。ジャパン・ハウスでは、そういった様々なコンテンツをただプレゼンするのではなく、それらのコンテンツを作り出している民間の人々やその中で生まれる物語、またそれを支える日本の社会について伝えていくことで、来館者に日本についての理解を深めてもらうことを目指しております。
- そのようなコンテンツを民間から広く募るため、3都市を巡回する展示企画の公募を行い、スライドにある3作品が選ばれました。(別添をスライドに表示)

### (事業関連－政策広報)

- また、日本という国の生き立ちや現在までの歩みを伝えつつ、国際社会が直面する様々な課題に国際社会とともに取り組んで行く姿を見せていくことも、ジャパン・ハウスにおける重要な取組であると認識しております。貿易、投資、農業、環境、海洋、教育、また隣国を含む諸外国等、様々な要因、課題の中で、日本がどのように考え、変わり、向き合ってきているかを発信することで、コンテンツという枠を超えた日本という国そのものに対する理解の裾野の拡大を図っていきます。
- 定期的なブリーフィングやタブレット等を活用した情報発信の他、3都市のシンクタンク・教育機関等と連携したシンポジウムやワークショップの開催等を通し、今世界が抱える諸課題に対する解決策を現地と一緒に検討し、探していくことで、「課題解決先進国」として世界に貢献する日本の姿を見せていきたいと考えております。

### (事業関連－地方創生)

- さらに、日本の多様な魅力を発信する上では、地域の魅力を効果的に発信することが重要

と考えております。地域の魅力を発信するにあたっては、単純な物産や、施設、行事の紹介を行うのではなく、地域の伝統を支える人の姿や、その中で生まれる物語にスポットライトをあてることで、日本の文化の奥行きを伝え、このような文化を体験することを目的とするインバウンドの増加にもつなげていきたいと考えております。

- このため、来年度より、ジャパン・ハウス地域ワークショップという取組みを開始する予定です。ここでは、地域活性化に取り組んでおられる民間事業者や地方自治体の取組みを、さらに後押しする効果が得られるようなジャパン・ハウスでの事業企画を、地域の事業者と3都市のジャパン・ハウス事務局が共同で作りに上げて行くこととなります。
- 具体的な事業計画については、現地の事務局が中心となり企画を進めております。今後、それぞれの開館が近くついた時点で、本会議を開催し各事務局から事業計画について説明させる機会を設けたいと考えております。

### (設計デザイン)

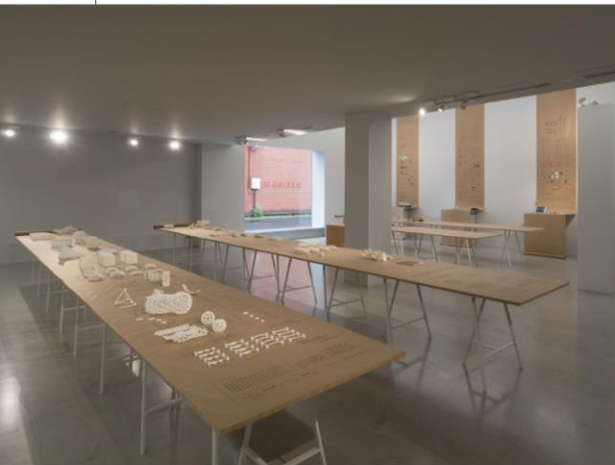
- 次に、施設に関する事項として、各都市のジャパン・ハウスの建築・設計デザイン業務を手掛けていただいている日本を代表するデザイナーの皆様をご紹介させていただきます。
- まずロンドンについては、片山正通(かたやま・まさみち)氏、ロサンゼルスについては、総合ディレクションとして谷川じゅんじ氏、各階の設計デザインに小坂竜(こさか・りゅう)氏、そして名和晃平(なわ・こうへい)氏、最後にサンパウロについては、隈研吾(くま・けんご)氏に設計デザインを担当いただいております。皆様のご協力もあり、いずれのジャパン・ハウスも非常に魅力的な施設となることが期待されます。

### (国内フォーラム)

- 最後に、関連の国内イベントをご案内させていただきたいと思っております。来年の2月25日に表参道ヒルズにて、一般に開放された形で、2回目となるジャパン・ハウス・フォーラムを開催いたします。そこでは、本日簡単にご紹介した巡回展の詳細な内容が各企画者から発表されるとともに、施設の設計についても各設計者の皆様から発表していただきます。さらに、シンポジウム形式で、現在の国際情勢を背景としたジャパン・ハウスの意義についての議論が行われる予定です。是非、皆様にもご参加いただければ幸いに存じます。
- 現在、関係者一丸となって2017年の開館に向けて鋭意準備作業を行っております。本日は、限られた時間の中ではありますが、ジャパン・ハウスを更に魅力的な拠点とし、より多くの方々に日本への新たな関心を抱いていただけるようなプロジェクトにしていけるよう、様々な分野をご専門とされる有識者諮問委員の皆様から忌憚のないご意見をいただければ幸いと存じます。

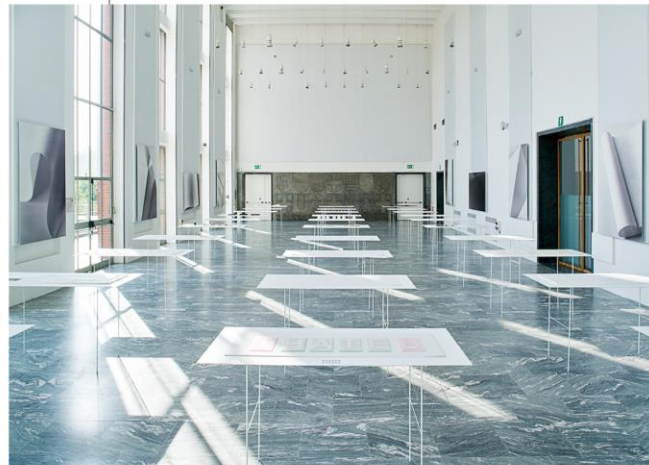
1 Prototyping in TOKYO

企画者：東京大学生産技術研究所山中研究室



2 SUBTLE —かすかな、ほんのわずかの  
TAKEO PAPER SHOW

企画者：株式会社竹尾



3 藤本壮介展 未来の未来  
Sou Fujimoto:  
FUTURES OF THE FUTURE

企画者：TOTO ギャラリー・間

